

12月13日「食品に関するリスクコミュニケーション(農業に関する意見交換会)」(近畿農政局) アンケート集計表

出席人数: 280 有効回答: 179 回答率: 64%

問1 あなたはどのような立場で参加しましたか。

	1 消費者団体	2 食品関連事業者(団体を含む)	3 生産者(団体を含む)	4 主婦	5 学生	6 無職	7 地方自治体職員	8 国家公務員	9 その他	* 未記入
問1	16	90	14	2	0	2	31	0	23	1
9	化粧品製造販売(1)、分析機関・会社(4)、専門学校教職員等(2)、会社員(3)、食品等モニター(3)、農業メーカー(2)、化学工業関係(1)、農業卸売・小売業(1)、消費生活関連事業従業者(1)、食品検査会社(1)、消費者問題の専門家(1)、メーカー(1)、NPO理事(1)、未記入(1)									

問2 本日の意見交換会の開催を、どのような方法で知りましたか。

	1 農林水産省のHP(報道発表資料)、配布物	2 近畿農政局のHP、配布物	3 農政事務所のHP、配布物	4 その他の行政機関のHP、配布物	5 メールマガジン	6 新聞、雑誌等	7 所属団体からの連絡	8 その他	* 未記入
問2	26	50	4	13	14	0	72	8	0
5	食品安全委員会・厚生労働省・農林水産省(8)、近畿農政局(2)、農林水産消費技術センター(1)、未記入(3)								
8	紹介(3)、他の講演会資料に同封(2)、未記入(3)								

問3 これまでに、下記の残留農薬対策またはポジティブリスト制度をテーマとした過去のリスクコミュニケーション等に参加されたことはありますか。

	1 残留農薬等のポジティブリスト制度の導入についての意見交換会(厚労省・農水省)	2 農薬のリスクアナリシスに関する意見交換会(農水省)	3 厚労省又は農水省のリスクコミュニケーション以外の説明会	4 地方自治体が開催した意見交換会等	5 その他	6 参加したことはない	* 未記入
問3	76	10	17	21	5	71	1
5	コープこうべの講演会及びちゃんと知らなきゃ農薬ゼミ(農薬工業会)(1)、分析会社によるセミナー(1)、農協(1)、食品安全委員会食品安全モニター会議(1)、メーカー及び団体主催の勉強会(1)						

問4 本日の「食品に関するリスクコミュニケーション」に参加された目的はなんですか。

	1 農業に関して理解を深めるため	2 ポジティブリスト制度へ対応した取り組みを知るため	3 農業に関しての意見を表明するため	4 立場の違う方々の意見を知るため	5 その他	* 未記入
問4	67	108	6	56	5	2
5	農業に関するリスコミの「手法」を学ぶため(1)、食品の安全性に興味があるから(1)最近の情勢を把握するため(1)、最新の情報を知るため(1)、未記入(1)					

問5 前半に行った説明についておたずねします。

問5－1 説明者の説明内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問5－1	27	108	16	16	2	10

問5－2 説明内容について理解できましたか。

	1 理解できた	2 おおむね理解できた	3 どちらでもない	4 あまり理解できなかった	5 理解できなかった	* 未記入
問5－2	37	115	13	9	0	5

問5-3 (②の質問で4または5と回答した方)

十分に理解することが出来なかった理由は次のどれですか。(当てはまるものすべて)

	1 スライド資料がわかりにくい	2 専門用語が多い	3 説明が早すぎる	4 よく聞こえない	5 その他	* 未記入
問5-3	6	4	27	0	5	0
5	・時間が少なく、資料の説明不足。					
	・内容の重複。					
	・説明時間が短い。					
	・一般の方々には時間が短く理解が難しかったのではないのでしょうか。					
	・役人の喋りが下手・平坦・暗い。もっとパフォーマンス・メリハリをつけてわかりやすく。言いたいことが見えない。					

問6 後半に行ったパネルディスカッション及び意見交換についておたずねします。

問6-1 司会者の進行は適切でしたか。

	1 適切だった	2 おおむね適切だった	3 どちらでもない	4 あまり適切ではなかった	5 適切ではなかった	* 未記入
問6-1	20	85	34	19	4	17
適切ではない理由	・パネリストの話が長い。持ち時間を与えるべき。(2)					
	・声が聞き取りにくかった。(4)					
	・質問内容を明確にしないと回答がし難いので、その点注意した方がよいと思う。					
	・早口すぎてわかりにくい。(3)					
	・パネラーに行政がない。消費者・流通・生産面(JAグループを入れないならば)で、もう一名ずつ加える。時間延長はなし。					
	・時間内にまとめることができなかった。					
	・ポイントがわかりにくかった。					
	・誰に何を聞こうとしているのかわからない。進め方の方向性が見えない。					
	・全くの素人。単に進めただけ。何も言及することはない。					
	・時間を守ってほしい。					

問6-2 発言者の声はよく聞こえましたか。

	1 聞こえた	2 おおむね 聞こえた	3 あまり聞こ えなかった	4 聞こえな かった	* 未記入
問6-2	114	53	1	0	11

問6-3 様々な立場の方がお互いに広く意見交換できていましたか。

	1 できていた	2 ややできて いた	3 どちらでも ない	4 あまりでき ていなかった	5 できていな かった	* 未記入
問6-3	12	78	47	23	2	17

問6-4 意見交換の時間は十分でしたか。

	1 長かった	2 やや長かつ た	3 ちょうど良 かった	4 やや短かつ た	5 短かった	* 未記入
問6-4	4	16	70	59	9	21

問7 意見交換会の内容について満足できましたか。

	1 できた	2 おむねできた	3 どちらでもない	4 あまりできなかった	5 できなかった	* 未記入
問7	8	79	53	20	4	15
満足できなかった理由	・時間が少ない。(3)					
	・新たな情報がなかった。今までの意見交換会と同じ内容。					
	・各者の意見の主旨が大きすぎて、あまり繋がりが無いように思える。生産者→消費者の隙間が大きすぎ。未だに縮まっていないような気がする。					
	・ポジティブリスト制度との関連があまり感じられない。(どう影響を受けたとか、考え方に変化が生じたとか。)					
	・農業に関する行政の実情について、もっと知らせてほしかった。					
	・生産者としてのJA及びマスコミ関係者の出席がほしかった。					
	・パネリストの交換より、一般来場者からの意見の時間を長くした方がよいと思いました。					
	・残留農薬のことについて、もっと詳しく聞きたかった。					
	・特に生産者と消費者の意見交換ができていない。消費者代表の方の質問に行政が答えるという形に止まっている。また、行政の答えに対する消費者の反応も聞けなかった。要するに一方通行。					
	・何を主題にして話を進めようとしているのか、意図が理解できなかった。					
	・逆に何の意味があったのか聞きたい。					
	・最初から急がせていたようで好感が持てない。					

問8 意見交換会を開催したことを評価しますか。

	1 評価する	2 おおむね評価する	3 どちらでもない	4 あまり評価しない	5 評価しない	* 未記入
問8	55	95	12	2	2	13

問9 日頃からご関心の高いものについて、3つまでご回答ください。

	1 残留農薬	2 食品添加物	3 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質等)	4 環境からの汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ダイオキシン類等)	5 天然毒素(カビ毒等)	6 加工中に生成する汚染物質(アクリルアミド等)	7 家畜の病気(BSE、鳥インフルエンザ等)	8 有害微生物(病原性大腸菌、サルモネラ菌等)	9 遺伝子組換え農産物	10 食品表示	11 トレーサビリティ	12 その他	* 未記入
問9	110	79	16	25	11	13	23	24	26	83	60	6	11
12	・肥料(1)、トランス脂肪酸(2)、アレルゲン(1)、マスコミの食品報道に関する姿勢、農業以外の化学合成物質の安全性確保(1)、加工時の衛生管理(1)												

問10 本日の「食品に関するリスクコミュニケーション(農業に関する意見交換会)」の感想、その他運営などで、何かお気づきの点や感じたことがございましたらご記入ください。

問10

- ・農産物の安全マーク有機JASマークが最近少なくなりました。各自治体で安全認証マークができています。国は後追い行政にいつもなっているように思います。
- ・食品安全委員会はBSE問題で懲りています。正しい情報が伝わっていないと思います。
- ・岡本さんの質問内容が良かった。本日の内容を濃くしてくれたと思う。(有意義であった)
- ・日本の生産者は記帳が完全にできていないことを理解した。
- ・発表者が用意されていた内容の割に時間が少なく、資料の棒読み、省略が多かったのは不満。もっと時間をとるか、内容を絞った方がよい。
- ・5月までに多く割いていたポジティブリスト自体の説明は減らしていいのでは。
- ・参加者の方からの質問に適切に答えられているように感じました。
- ・生協さんは消費者代表でもあり流通代表でもあるので、食品メーカーに対する意見も聞きたかった。農家代表の方の説明、体験、意見がとても良かった。
- ・生産者の方のご苦労や悩みがよくわかりましたが、消費者の方に聞いていただきたい内容でした。対象を消費者と企業に分けた方が良かったのではないのでしょうか。各々が必要とする情報まで到達できなかったように思います。
- ・農業団体、マスコミ関係者の参加、ご意見をいただきましたかったです。
- ・農業は食品の安定供給、生産者の労力軽減に不可欠なものなのに、私たち消費者はセンセーショナルな科学報道に惑わされ、異常なまでに農業を毛嫌いしてきた気がします。一方では、行政への不信も根強く、行政の情報を消費者が信頼できずにいるという問題点もあります。根気強い情報発信と科学報道の問題点の指摘が必要な気がします。「食べ物の農業は大丈夫？」のパンフ(北野大さんの講演会でも頂きました)のように、これだけの検査がなされて、違反率はこんなに低いということ(今の農業は昔と違ってずっと毒性が低いことなど)をもっと消費者にPRすべきだと思います。北野先生の講演会で農業をちゃんと使ったリンゴの方が、アトピーの発生が少なかったというお話がありました。そのような情報もっと発信してほしいと思います。食品安全委員会の唐木先生は「複合汚染はない」と言い切っていっぱいしましたよ。
- ・資料が見やすかった。(適当な字の大きさ、フロー図等) ただ色別すると印刷物は白黒のみとなり、反映できる色調にした方が嬉しい。
- ・流通に携わる人間として、安心・安全を求めるお客様の声をいかに生産者に伝えることができるかということが生産者の方に対しても、より高い意識で農作物を生産していく促進に繋がると考える。川上から川下まで、コミュニケートできる場の提供を行政には求めたい。希望・期待したいと思います。
- ・実施からまだ日が浅いので十分なデータが無いとは思いますが、今後、ポジティブリストによって食品は変わったのかという検証もしていただきたい。
- ・会場からの質問事項によって、一般の人がどんなことに疑問点を持っているのかわかった点がよかった。
- ・農業の表示→使用者に対してわかりやすくする。
- ・前半の情報提供の4名の報告内容がかなり重複していた。もう少し事前の調整をして分担した方がよいと思う。
- ・導入後の状況やその中で出てきた課題・問題点などについても、具体例を挙げて報告してほしい。
- ・アンケートは1枚がベスト。
- ・全体的に時間が短くて内容が薄かったように思う。時間を気にするあまり話が飛ぶことが多かった。
- ・今回は消費者、生産者の方が参加するためか、国内の農産物についての話だったが、自給率40%というのだから、輸入食品についてももっと触れてほしかった。(厚生労働省の方が参加されていたのだから)
- ・会場の席が非常に狭く窮屈であった。何とかならなかったのか。
- ・農の現場の人数は厚めがよい。
- ・ポジティブリストへの取り組み(記帳運動等)はJAが重要な役割を果たしていると思います。JAでの取り組みや現状など、JAの担当者のお話も聞いてみたいと思います。

	・ポジティブリスト制度で輸入品のハードルが非常に高くなったが、地球規模での農産物の有効利用を改めて考える必要あり。
	・海外の生産者等も呼んでみたら。
	・勉強になりました。興味を持った人達だけの集まりですが、レベルアップに繋がっているのではないのでしょうか。 ・食品の検査に携わる者として嬉しい反面、なぜ日本は農産ばかり不安がるのかわかりません。GMO、農薬等、ホントは危険の大きさとして過敏になる程の事はないと思っています。あまり、リスク、リスクと言うなら、細菌やカビ毒の方が食育に必要かと。
	・一般の参加者からの質問内容が非常に興味深かった。
	・残留農薬の中で気になるのは、野菜(農産物)のことへの注目がされております。中国からの冷凍ほうれん草の問題がありましたが、他の地域からでも検出されないこともございます。中国の方へは、トレーサビリティを徹底することで安全性を伝えることができますが、日本の農産物ではどのような状況なのでしょう。日本の農産物の方が農薬を基準値以上検出する可能性はないのでしょうか。
	・一律基準0.01ppmに対する疑問。本制度が施行される際に、各作物毎に決められた暫定基準に入っていないが、本来は調査不足のためにわからなかった農薬は全て一律基準になってしまっているのが問題となっていると思う。各農産物に対する「基準値が決まっていないが、実際には検出されて輸入がストップされているような農薬については、摘発だけでなく、早急に基準値を設定しないと。自給率40%の日本の食料がどうなっていくのか大きな不安がある。 ・栽培されていない水産物(当然基準値は設定なし)に一律基準を適用して検出、摘発は疑問を感じる。(分析より履歴調査が重要だったのでは) ・野菜は生の基準なのに、乾燥品は品目によって水分率換算されるものとそうでないものがあると聞いているのが疑問点である。 ・同じ野菜でも、例えば「生のなす科野菜」と同分類に属する「乾燥唐辛子」では一日の摂取量に大きな差があるのに、残留基準が同一というもおかしいのでは。摂取量による換算係数等の案はないのでしょうか。
	・生産履歴記帳のチェックがなされていないのではとか携帯電話を使ったトレーサビリティについて、会場から回答をしようと手を挙げ続けたが回答のチャンスがなかった。 ・パネラーに大阪府の農林行政担当orJAを入れるべき。農水省の回答だけでは当を得ていない。もしくは、関係者席をつくって、そこに回答を求めたらいいのでは。
	・パネルディスカッションに農業団体(JA、全農)の人がパネリストとして出席する必要があると思います。都市の食料の供給は地方の大産地から出荷されているので、そのような団体からの意見が必要である。都市近郊の農業者の考え方・方法は異なると思います。JAの指導方針・方法の意見が大事である。個人出荷の生産者をパネリストとして出席してもらっても意味がない。
	・消費者の農薬に対する知識があまりにも低レベルではないか。もう少しレベルが上がってから生産現場との意見交換会を実施した方が良くないか。それまでは農水省・厚労省にお願いしたい。山本先生の話は非常に良かった。
	・「農薬の不安感」正しい農薬を正しく使うことでリスクは軽減される。ただ、木酢、ニーム、HB101など活性剤を野放しにしている状況はいかがなものか。こういうものをきっちりリスク評価してこそ、生産側も安心して使用できるし、消費者も一つリスクが減っていく。防除効果があるなら、特定農薬にするか、無登録農薬として規制するか、はっきりするのは行政の仕事ではないのでしょうか。そこをのんびりしていると、リスクを何回やっても不安は増えますよ。 ・ポジティブリストの一律基準を毎年少しでも減らしていく努力がみえない。つまり、安全の基準をハッキリさせる努力がみえない。毎年、一律基準の枠を減らす努力をすべき。
	・今後も継続的に取り組んでほしい。
	・前半の説明会は時間の割に説明人数が多く、皆さん早口で端折り気味であったのが残念。説明者を一人減らし、長目にした方が良いのでは。 ・山本先生の説明はわかりやすい。 ・後半のディスカッション時、壇上で居眠りをしている人がいた。講師として呼んでいるのであれば、どうして呼ぶ必要があったのか疑問。非常に見苦しい姿であった。
	・農薬の必要性や安全性などについて、消費者団体に知ってもらう良い機会であったと思う。最近、「農薬は悪いもの」というイメージがあるので、意義ある会であった。
	・たくさんの人にもっとわかりやすく知らせてほしい。今日の話で少し知識が増えました。ありがとうございました。
	・前半の時間が押したことについて残念。後半に時間をさいてほしい。後半はかなり参考になった。今後も多くしてほしい。前半は専門的なのか一般市民向けなのかどっちつかずでダメ(中途半端)だったと思う。市民でも興味のある者が参加しているので、より専門的な内容にして良いと思う。会場が狭いので長時間はしんどい。
	・時間が短かった。スーパーでのポジティブリスト対策の意見が聞きたかった。
	・居眠りをしているパネラーが居た。人選を考えてほしい。
	・パネルディスカッションが思っていたよりよくできていた。(人数が多いわりに) 一般の関心が高いことがよくわかった。

	・横田室長、山本副学長ら各界の専門の方のご出席でとてもわかりやすい、また参加者を十分満足させるものであったと思います。 ・消費者の理解を100%得るのは困難かと思いますが、できるだけこういった機会をお作りいただけるようにお願いします。私たちも各々の立場で、できることから取り組んでいきたいと思いを新たにしました。 ・農薬の使用規制ばかり強調され、安定生産で努力されている生産者への負担がどんどん大きくなっている。一方、農薬登録はメーカーの都合でカットされ、生産で限界を感じられる。使用、登録、残留基準設定に対してもっと国の支援が必要ではないかと思われた。 ・ポジティブリスト関連で、基準値を超える農作物に対する報道が出るたびに、「健康に影響なし」とコメントが発表されるが矛盾してないか。基準値が間違っているのではないのか。 ・前半の情報提供について。内容が正しいのは理解しているが、農薬の安全性を強調しすぎている気がする。行政主催の会で冒頭に必要以上に安全性を強調すると、逆に消費者の不審を招くことがあるのではないか。 ・後半の意見交換について。農薬という難しいテーマで意見交換会を実施することに対しては大いに評価します。消費者と生産者が話し合う機会は必要だと思います。ただ、パネリストの数が多すぎると、生産現場に密着した行政関係者（普及指導員のような）がいた方がよいと感じました。このような意見交換会でうまくいったケースはほとんど見たことがありません。コーディネーターがよほどしっかりと進めないと成功しないので、コーディネーターの選定や意見交換会の主旨をしっかりと絞って実施してほしい。 ・他の人にも広く知っていただけるように、繰り返し開催していただきたい。 ・農薬の安全性や農業現場での安全使用の取り組みをテレビ番組をつくって、一層多くの人に知っていただければと思いました。 ・農業現場でリスク管理を実践している方がパネリストに入っておれば、なおよかったと思います。 ・このような機会は大変だと思いますが、回数多く継続してほしいと思います。 ・主題はポジティブリスト制度の施行と対応であって、各人の個々の事情を聞かされて、司会がこれをとりまとめ得ないので、話のまとまりが掴みようのないものになってしまっている。話が消費者への問題にフィードバックしていない。 ・とてもわかりやすい内容で、「無農薬＝善、農薬＝悪」というイメージが消えてとても勉強になった。次回も参加したい。 ・前半の時間配分には無理があったのでは。もう少し個々に異なる内容を入れていただきたかったです。 ・消費者と生産者の意見が聞けてよかったです。生産者の情報開示が必要と感じました。 ・情報提供のテーマが多岐に渡り時間が短かった。半日で行うならテーマを絞るべきではないでしょうか。 ・広く農薬に対する取り組みを知ることができた。 ・前半の情報提供では「4」の「農薬のリスクと安全性評価について」が今回最も意義があったように思います。世間一般の認識では、農薬＝有害物質という図式がありますが、農薬がいかに厳しいテストを経て生まれるのかという事実を国民はあまりにも理解していないと思います。 ・マスコミの「センセーショナルが全部」という態度が最大の問題であると思います。 ・5分刻みのタイムスケジュールを掲載しているのであれば、その時間通りに進行するべき。ズレを見越しているのであれば、はじめから情報提供の人数を減らすか各人の時間を延ばして、13:35～15:00にすべきでは。報告者の方も承知の上かもしれないが、そうでなければ気が急いで気の毒。上記のような運営の仕方が、いかにも役所的と思ってしまうのは私だけでしょうか？ ・パネラーが消費者代表の岡本さん以外男性ばかり。できれば半々に近い男女比でしていただけるといい。 ・終了時間が延びるのは困る。当初から余裕を持ってスケジュールを組んでほしい。 ・パネリストの一人が意見交換会中に寝ていたのは非常に問題である。その後の御発言に全く説得力がない。 ・パネリストをみると女性が1人、これは均衡上よくない。 ・パネリストの数が多すぎる。この場合行政関係者は不要。 ・コーディネーターは第三者がよい。今回の方は（司会）早口でよくわからない。 ・農業者の選定？ ・消費者の発言はよかった。流通の話はピンぼけ。 ・リスクコミュニケーションを話のレベルで二つに分けて実施して下さい。一つは、何も知らない人をターゲットに消費者中心向けで。今回の内容では、その人達には有効であったと思います。もう一つは、基本的な情報を知っている層へのコミュニケーションです。パネルディスカッションだけでもいいかもしれません。よろしく願いいたします。 ・パネリストが舞台上で居眠りするのはいかがなものでか。 ・進行が押し気味に進みすぎていた。当日の天気、その他のせいもあったのかもしれませんが。それから、マイクの入りが悪いのかスピーカーの出力が低いのか、聞きにくいパネリストの方が居られた。会場内の私語が目立った。
【事務局から】 アンケートにご協力いただきありがとうございました。 今回いただいたご意見は、担当者に伝えとともに、今後の意見交換会の運営に役立てて参りたいと思います。 （問い合わせ先） 農林水産省近畿農政局消費・安全部消費生活課 担当：蜂屋、水野 TEL. 075－451－9161（内線 2217）／ FAX 075－417－2149	